

| | | | | | | | |
|-----|---------|-----|--------------------|----|----|-----|---|
| 科目名 | 教育臨床学特講 | 担当者 | イノウエ 井上 マサヒコ 雅彦 | 期間 | 通年 | 単位数 | 4 |
|-----|---------|-----|--------------------|----|----|-----|---|

【科目概要】

| | | | |
|--------------|--|-----|--|
| 目的 | 本講義では子どもや若者を取りまく様々な心理的・行動的な問題について、認知療法，認知行動療法，行動分析学の理論と手法を体験的に学び修得することにより、以下の能力を身につけることを目的とする。 | | |
| 到達目標 | <p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>認知療法，認知行動療法，行動分析学の理論と手法を理解する 日常的な問題を分析し，教育に生かす力を身につける</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>i 学校教育場面における子どもの心と行動の問題を理解する (知識・解釈) ii 認知療法・認知行動療法・行動分析の技法を説明する (知識・解釈) iii 日常場面の行動を機能分析する (技能・コントロール) iv 日常場面で生じる問題について解決方法を立案する (技能・コントロール) v 日常場面で生じる問題について行動実験を実施する (技能・コントロール)</p> | | |
| 学修方略 (方法) | <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 (自主研究・レポート作成)</p> <p>manaba folio での掲示板機能を利用し教員と受講生とのディスカッションによりレポートの最終版を完成させる。</p> <p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>① 前期・後期とも前半部分は学校教育場面における子どもの心と行動の問題についてネット上の統計データや資料を基に考察する。 ② 後半部分は認知・行動理論に基づいた分析方法について学習しレポート課題に基づいて指導を受ける中で臨床心理学の研究方法を学習する。 ③ レポート課題に沿った資料・事例及びデータを収集し分析する。(20 時間) ④ レポートの草案を作成する。(20 時間) ⑤ manaba folio での掲示板機能を利用し教員と受講生とのディスカッションによりレポートの最終版を完成させる。(5 時間)</p> | | |
| スケジュール | <p>①前期 (基本教材1 レポート課題1、2) に関しては最低でも8月31日までは第1回目のレポートを提出すること、学事歴で定められた日までにコメントに対して修正し最終段階のものを提出すること</p> <p>②後期 (基本教材2 レポート課題1、2) に関しては最低でも12月末日までは第1回目のレポートを提出すること、学事歴で定められた日まではコメントに対して修正し最終段階のものを提出すること。ただし、やり取りは複数回となる可能性もあるため、コメントに十分に対応するためには前後期とも第1回目の提出は締め切りより早いほうが望ましい。</p> | | |
| 成績評価 | 種別 | 割合 | 評価基準 |
| | レポート | 70% | 形式が適切か、問題点が論理的かつ認知・行動理論の用語に基づいて説明・整理されているか、参考図書・他の論文などを適切に引用して考察されているかという観点から評価する。 |
| | 観察記録 | 30% | 活発に質問を行うなど積極的に取り組んだか。レポートの提出期限を厳守したか。受講生同士及び教員の指摘事項を真摯に検討したか。明瞭かつ論理的な説明を心がけているか。 |
| 履修者への要望 | 実施したワークをレポートとともにPDFもしくはワードファイルにて添付してください | | |

【レポート課題】

| 基本教材 1 | |
|----------|--|
| 教材の概要 | 著者名： (1) 竹田伸也『認知療法トレーニング・ブック』遠見書房 2012年1,050円 教材名： (2) 竹田伸也『認知療法トレーニングブック セラピストマニュアル』遠見書房 2012年1,890円 |
| | 認知療法は対象者の認知や行動に焦点をあて、それらの変容を通して問題解決を図る心理療法であり、うつ、不安障害、ストレス関連障害などの効果が示されてきています。また、予防的アプローチとしても教育や労働領域にも応用が期待されています。(1)が認知療法のワークブック、(2)が理論的解説書となっていますので両方を購入してください。 |
| 参考図書 | 坂上貴之・井上雅彦 『行動分析学—行動の科学的理解をめざして—』有斐閣 2018年 2100円 厚生労働省 うつ病の認知療法・認知行動療法（患者さんのための資料） https://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/kokoro/dl/04.pdf 厚生労働省 うつ病の認知療法・認知行動療法治療者用マニュアル https://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/kokoro/dl/01.pdf |
| 履修上のポイント | 講義の前半はシラバスに記したインターネット上の資料を用いて学校教育の中で生じている子どもの心と行動の問題とその対応・施策について学習し、その課題について考察します。後半は教材を中心に心理療法を理解し体験的に取り組みながら学習することを目標にしています。教材は二冊とも読んで頂き、トレーニングワークを実際にやってみることで認知療法・認知行動療法の理解を深めることができます。参考図書は「行動分析学」は、認知行動療法の原理を学ぶことができるものです。 |
| レポート課題 1 | シラバスの「学校教育における児童生徒をとりまく課題1～3」に示された資料を基に、「不登校の実態と対応」について以下の3つの構成でレポートを作成してください。①実態についての整理・説明、②その中で課題として重要な点を取り上げ、説明する、③自分なりの解決方法について考察する。 |
| レポート課題 2 | 教材を参考に「見つけ直し日記」と「行動実験ワークシート」をやってみて、うまくいった点、いかなかった点についてその理由を考察してください。 留意点： 理由についての考察は、教材(2)の認知・行動療法の理論の用語を使用して考察してください。見つけ直し日記とワークシートはレポートに添付することを原則とします。 |

| 基本教材 2 | |
|----------|---|
| 教材の概要 | 著者名： (1) ポール・スタラード著/下山晴彦訳 「子どもと若者のための認知行動療法ガイドブック」金剛出版 2008年 2,600円 教材名： (2) ポール・スタラード著/下山晴彦訳『子どもと若者のための認知行動療法ワークブック』金剛出版 2,730円 |
| | 認知行動療法は、多くの精神障害について科学的にその治療効果が実証されたものであり、我が国でもその普及が望まれています。(1)、(2)はともに認知行動療法を子どもや若者に適用するためのテキストとなっています。このワークを体験していきます。 |
| 参考図書 | ユーナス・ランメロ他著/松見淳子監訳『臨床行動分析のABC』日本評論社 3,465円 認知行動療法の基礎になる行動分析の理論を基礎から解説し、臨床にどう生かされているかを解説した本です。実践に興味を持ちこれからさらに臨床心理学を深く学んでいく方のためのテキストです。 |
| 履修上のポイント | 教材で学んだことを発展させ、認知行動療法の理論を学び、ワークを体験しながら進めていきます。特に教材(2)のワークブックにより、こころと行動の問題とその解決について学習し、考察することを目的としています。 |
| レポート課題 1 | シラバスの「学校教育における児童生徒をとりまく課題4～8」に示された資料を基に、いじめ、暴力行為、ネット依存のどれか一つについて選択し、以下の3つの構成でレポートを作成してください。①実態についての整理・説明、②その中で課題として重要な点を取り上げ、説明する、③自分なりの解決方法について考察する。 |
| レポート課題 2 | 教材(2)のワークブックにあるワークのいくつかを自ら実施してみて、それに関してうまくいった点、いかなかった点についてその理由を考察してください。2つ以上の複数のワークを行うようにしてください。 留意点： 理由についての考察は、認知・行動療法の理論の用語を使用して考察してください。ワークに使用したシートはレポートに添付することを原則とします。 |

基本教材 1

| | |
|------|--|
| 第1回 | <p>学校教育における児童生徒をとりまく課題1 概論</p> <p>資料1：平成30年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/31/10/1422020.htm をもとに学校教育の中で子どもを取り巻く実態について理解する。</p> |
| 第2回 | <p>学校教育における児童生徒をとりまく課題2 不登校の実態と教育的対応(1)</p> <p>資料2：不登校傾向にある子どもの実態調査 https://www.nippon-foundation.or.jp/who/news/information/2018/20181212-6917.html を資料1の不登校の実態調査と比較し、不登校の実態と対応について考察する</p> |
| 第3回 | <p>学校教育における児童生徒をとりまく課題3 不登校の実態と教育的対応(2)</p> <p>資料3：不登校児童生徒への支援に関する最終報告 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/108/houkoku/1374848.htm をもとに不登校への教育的対応について理解し、その課題について考える</p> |
| 第4回 | <p>子どもの心の病とその治療1 概論</p> <p>資料4：厚生労働省 こころの病気について知る https://www.mhlw.go.jp/kokoro/parent/mental/know/index.html を参照し、うつ、不安障害、統合失調症、薬物乱用、摂食障害について理解する</p> |
| 第5回 | <p>子どもの心の病とその治療2 うつ病</p> <p>資料5：奥山 こどものうつ病 https://www.ncchd.go.jp/kokoro/medical/pdf/03_h20-22guide_11.pdf を参照し早期発見と治療のガイドラインについて理解する</p> |
| 第6回 | <p>うつに対する認知療法・認知行動療法を学ぶ1</p> <p>資料6：厚生労働省うつ病の認知療法・認知行動療法（患者さんのための資料） https://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/kokoro/dl/04.pdf 資料7：厚生労働省うつ病の認知療法・認知行動療法治療者用マニュアル https://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/kokoro/dl/01.pdf を参照しコラム法の概要について理解する</p> |
| 第7回 | <p>うつに対する認知療法・認知行動療法を学ぶ2</p> <p>教材(1)竹田伸也『認知療法トレーニング・ブック』遠見書房を精読し、認知療法の実践手順について理解する</p> |
| 第8回 | <p>うつに対する認知療法・認知行動療法を学ぶ3</p> <p>教材(2)竹田伸也『認知療法トレーニングブック セラピストマニュアル』遠見書房を精読し技法について理解する</p> |
| 第9回 | <p>レポート課題1：初稿の作成</p> |
| 第10回 | <p>レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成</p> |
| 第11回 | <p>レポート課題1：最終稿の作成</p> |
| 第12回 | <p>レポート課題2：初稿の作成</p> |
| 第13回 | <p>レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成</p> |
| 第14回 | <p>レポート課題2：最終稿の作成</p> |
| 第15回 | <p>レポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証</p> |

基本教材 2

| | |
|------|--|
| 第1回 | 学校教育における児童生徒をとりまく課題4 いじめに対する教育的対応 資料8：いじめの重大事態の調査に関するガイドライン https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2019/06/26/1400030_009.pdf をもとにいじめに対する教育的対応について理解し、その課題について考える |
| 第2回 | 学校教育における児童生徒をとりまく課題5 暴力行為に対する教育的対応 資料9：国立教育政策研究所 https://www.nier.go.jp/shido/centerhp/lsyu-kaitei/lsyu-kaitei090330/lsyu-kaitei.6bouryoku.pdf をもとに資料1の実態と比較し、暴力行為の実態と対応について考察する |
| 第3回 | 学校教育における児童生徒をとりまく課題6 インターネット・ゲーム依存への対応(1) 資料10：情報化社会の新たな問題を考えるための児童生徒向けの教材、教員向けの手引書の指導書を精読し、ネット依存の実態と対応について理解する https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1408175.htm |
| 第4回 | 学校教育における児童生徒をとりまく課題7 インターネット・ゲーム依存への対応(2) 資料11：情報化社会の新たな問題を考えるための児童生徒向けの教材、教員向けの手引書の動画教材を視聴し、ネット依存の実態と対応について理解する https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1408175.htm |
| 第5回 | 学校教育における児童生徒をとりまく課題8 インターネット・ゲーム依存への対応(3) 資料12：平成30年度 青少年のインターネット利用環境実態調査 (PDF版) https://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h30/net-jittai/pdf-index.html を精読し、資料6の動画教材と合わせて小4以下の低年齢の対応について考察する |
| 第6回 | 不安とうつへの認知行動療法の統一プロトコル 資料13： https://www.ncnp.go.jp/cbt/research/archives/5 を参照し、認知行動療法の基本を理解する |
| 第7回 | 不安障害の診断と治療 資料14：傳田健三 https://journal.jspn.or.jp/jspn/openpdf/1090040389.pdf を精読し不安障害とその治療について理解する |
| 第8回 | 子どもの不安障害：認知行動療法の実践と成果 資料15：石川信一 http://www.jahbs.info/journal/pdf/vol27/vol27_3_2.pdf を精読し子どもの不安障害の認知行動療法による治療について理解する |
| 第9回 | レポート課題1：初稿の作成 |
| 第10回 | レポート課題1：添削指導に対する修正稿の作成 |
| 第11回 | レポート課題1：最終稿の作成 |
| 第12回 | レポート課題2：初稿の作成 |
| 第13回 | レポート課題2：添削指導に対する修正稿の作成 |
| 第14回 | レポート課題2：最終稿の作成 |
| 第15回 | レポート課題1・2を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証 |